

都道府県名

佐賀県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	北茂安町立北茂安中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	94	106	116	1	317	

研究の概要

## 1. 研究主題

確かな学力の定着を図る教科指導  
 - 確かな基礎学力を身につけ、生き生きと表現する生徒の育成 -

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

- 全学年・全教科
- ・ 数学は理解の状況や既習事項の習得の程度に個人差が大きいため
    - ・ 1年は週に2時間TTと少人数授業を行っている。
    - ・ 3年は全時間（週に3時間）に少人数授業を行っている。
  - ・ 国語は全ての教科の基本として、読解力や表現力など重要な要素であるため
    - ・ 1・3年は週に1時間TT授業を行う。
    - ・ 2年生は週に1時間1クラスを3グループに分け少人数授業を行う。
  - ・ その他の教科については、各教科の人員で授業の内容改善に取り組む。

## (2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ          確かな学力の定着を図る教科指導          ~ 確かな基礎学力を身につけ、生き生きと表現する生徒の育成 ~</p> <p>研究の見通し（仮説）          各教科の基礎・基本を定着させその特性を生かして子どもに達成感をもたせれば、学習に意欲的に取り組み、表現力を含めた学力を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法          指導方法の改善          ア、数学科では3年生のすべての時間（週3時間）1クラスを習熟度別に2コースに分け、少人数授業を実施する。1年生は週に2時間、単元によりTTと少人数授業を行う。          イ、国語科では2年生で週1時間、1クラスを3コースに分けた少人数授業を行う。1・3年生は週1時間、TTの授業を行う。          ウ、教科部会を中心に、少人数授業等研究班、TT授業等研究班、実技教科指導班などを活用して、全教科で指導方法の改善に取り組む。</p> <p>選択教科における基礎・基本の習得          選択教科においても、補充・発展コースを開設するなど多様なコースで学力の定着を図る。</p> <p>教材の開発          教科の指導方法改善に伴って、指導の方法に適した教材の開発を行う。</p> <p>保護者や地域住民との連携          本校の指導方法改善の取組について、保護者や地域住民に対してその意義や取組の内容を知らせ、理解と協力を求める。また、必要な情報を収集したり地域の人材を発掘したりして、指導方法改善や基礎学力の定</p>
--------	--

着に活用する。

評価を生かした授業の改善に取り組む。

授業を公開し、地域や近隣の学校からの参加を呼びかける。

朝読書や生徒会の取組なども、学力向上の一環として取り組む。

平成16年度

テーマ  
(基本的に15年度と同じテーマで取り組む予定)

研究の見通し  
来年度も、全教科による授業改善の取組を進めたい。平成15年度の研究を基本にして、国語・数学・英語の3教科(加配を要望している)について少人数授業を行い研究を発展させたい。

研究の内容・方法  
平成15年度の計画を基本に、基礎・基本の内容の確認とその定着化を図る公開授業や授業研究会等を全職員が行う。授業規律について全教職員で統一した取組を行う。家庭学習についての取組を検討する。

(3) 研究推進体制

各教科の取組  
学力向上についての各教科の取組は、教科部会を中心に行い、授業研究会等の内容によっては、少人数授業等研究班・TT授業等研究班・実技教科研究班によって行う。

専門部会の活動と構成について

調査・資料部会

- ・生徒の意識や学力の状況等、必要な調査を行い、その結果をまとめる。
- ・調査資料や先進校の資料などを集め保管し、閲覧できるようにする。

地域連携・情報発信部会

- ・地域の人材を発掘し、人材リストを作り、各教科の指導に活用する。
- ・地域や保護者等に向けて、学力向上の取組について情報を発信する。

教科部会	国語科部会	少人数授業等研究班
	数学科部会	
	社会科部会	
	理科部会	TT授業等研究班
	英語科部会	
	音楽科部会	実技教科研究班
	美術科部会	
	保健体育科部会	
	技術家庭科部会	

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 各教科の基礎・基本の内容を明確にし、各教科での基礎・基本の内容を交流した。
- (2) 公開授業を3回、6教科で行い、地区の教科部会と連携して授業研究会を行うことができた。
- (3) 国語科では2年生で1クラスを3つのグループに分けて習熟度別少人数授業

を行った。1・3年生はT Tの授業を週に1回行った。習熟度にした学年ではより意欲をもって取り組むようになった。習熟度別にしたことにより、得意な生徒は発展問題、苦手な生徒は基本問題に取り組み、生徒自身の達成感が得られた。(国語が嫌いな生徒34.3 18.8%、苦手な生徒30.3 18.8%)

- (4) 数学科では3年生で全時間を習熟度別の少人数授業を実施して、生徒の意識調査からも数学が好きな生徒が10%以上増加している。また、授業の形態として、91%の生徒が少人数授業を希望している(15年10月)。数学が分かるようになった生徒が63%から69%に、数学に興味が出てきた生徒は53%から64%に増加している。
- (5) 理科では3年生の実験等でT T授業を行い、実験器具の操作の指導などがどの班にも行き通るようになった。練習問題に取り組むときにも、気軽に先生に質問する生徒が増えてきたようであった。
- (6) 英語科では文型ドリルの実施により、学習習慣が定着してきた。また、年度当初に評価規準表を配布することで、生徒自身が各観点ごとの具体的な評価項目を事前に把握し、学習に役立てることができるようになった。暗唱テストやスピーチの実施により、表現の能力を問う問題の正答率が上がってきた。
- (7) 音楽科では合唱の授業に小グループアンサンブル活動を取り入れた授業を行い、次の成果が得られた。  
練習への集中力が高まった。  
リーダーを中心に小グループの中で自分の役割が増し、自分たちで合唱を作り上げる楽しさを感じ、意欲的に取り組むようになった。  
小グループ活動で自分の考えを出せる場が増え、生き生きした表情が見られるようになった。
- (8) 技術・家庭科では、作業と座学の切り替えを行う学習習慣ができ、作業のポイントや注意点を理解して作業ができるようになった。また、ワークシートの活用により作業内容を系統立って把握し、作業の効率が上がってきた。
- (9) 朝の読書の取組により、1校時のスタート前に学校全体が静かな雰囲気担任も含めて全員が読書をする習慣が身についてきている。
- (10) 全校集会や教育講演会のときに、聞き取り練習を行い、聞き取ったことを短い文にまとめる力がついてきている。

## 2. 今後の課題

- (1) 各教科の取組の交流を深め、互いに他教科から学び合う取組を進めること。
- (2) 授業規律の内容について検討し、共通して指導する授業規律の内容について確認して、年度当初から取り組んでいく必要がある。
- (3) 生徒の意識調査から、家庭学習が定着していないことが明らかになっているので、各教科の学習の仕方の指導等の取組が必要になっている。
- (4) 各教科の担当が指導法の改善をするときに、相談できる相手やアドバイスを受けることのできる環境づくりを行う必要がある。特に、教科担当が1人の教科について、教科部会を1人でしなければならない。
- (5) 公開授業の実施の方法として、もう少し参加しやすい時期の設定や研究会の持ち方等を工夫する必要がある。

## 学力把握のための学校としての取組

- (1) 学習意識調査 5月、12月に実施。生徒の学習に関する意識を把握する。
- (2) 標準学力検査 1年生は4月と3月、2年生は3月に実施
- (3) 定期テスト・各教科の単元テストなど

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 3回の公開授業・授業研究会を6教科で開催。  
10月23日 音楽科、技術・家庭科  
11月13日 国語科、数学科、理科  
12月16日 社会科
- (2) 国語科、数学科、理科については、三養基郡の各教科部会と連携して、公開授業・授業研究会を実施した。
- (3) 公開授業・授業研究会について、三神教育事務所管内の小・中学校と県内のフロンティアスクール、普通科高等学校へ案内を配布し、それぞれの学校から参加があった。
- (4) 学校開放日に授業公開を行い、保護者や地域の人にも授業を公開した。

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無